

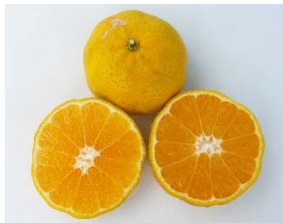
【全体概要】

喜界島の在来かんきつについては、機能性成分を比較的多く含有していること等が鹿児島大学の調査で報告されており、生果のみならず加工品への活用も期待されているが、現状では庭先果樹としての栽培が多く、産地としては面積、生産量が少ない状況である。

このため、今後は特有の香気成分の分析・評価や早期多収技術の検討及び喜界島に合った台木の選定を行い、小規模ではあるが面積及び生産量を拡大し「在来かんきつ」の産地育成につなげる。

新品種・新技術等の概要

- 喜界島の在来かんきつ4品種
「ケラジ」「シークー」「カーブチー」「フスー」
- 「ケラジ」の特性
 - ①特有の香りがあり、種子が少ない
 - ②機能性成分であるポリメトキシフラボノイドを比較的多く含む

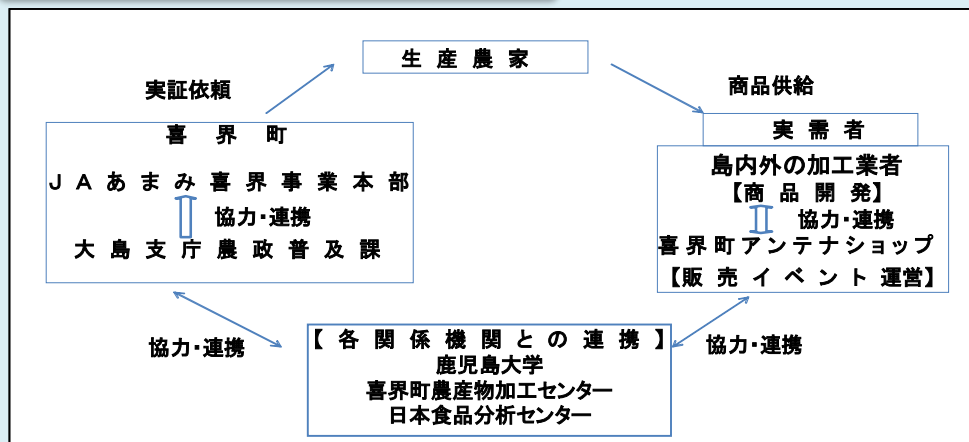


「ケラジ」の果実（着色期）



新植ほ場の樹姿状況

実施体制図



実績と今後の展開

- 取組実績
 - ・ 栽培面積 2 ha (H29) → 2.2 ha (R1)
 - ・ 生産量 10 t (H29) → 11.5 t (R1)
 - ・ 販路開拓 東京都 3店舗 (H30)、愛知県 1店舗 (R1)
- 今後の展開
 - ・ 香気成分の分析結果を基に、在来かんきつの特徴をPRすることで販路開拓等に活用する。
 - ・ 面積拡大及び実需者への安定供給により在来かんきつの産地育成につなげる。

主な取組内容

- 果皮の香気成分の分析・評価
 - ・ 在来かんきつ4品種の香気成分分析 (リモネン、リナロール、酢酸リナリル)
 - ・ 分析結果等を踏まえた活用方法検討
- 在来かんきつの早期多収技術の検討
 - ・ 施肥・病害虫対策の検討及び栽培暦作成
 - ・ 台木 (カラタチ、トロイヤートレングなど) による生育状況確認
 - ・ 先進農家の栽培技術等情報収集
- 市場ニーズ調査、意見交換
 - ・ 東京市場等訪問によるニーズ調査及び意見交換